

鶴居村ならではの授業

タンチョウのえさづくりプロジェクト

幌呂小学校と下幌呂小学校で毎年行われているタンチョウの冬の餌を自分たちで作る「タンチョウえさづくりプロジェクト」の紹介です。この授業は、当たり前のように村内で行われている「タンチョウへの給餌活動」に間接的にかかわりながら、タンチョウや保護活動に

興味関心を持ってもらおうと平成20年に下幌呂小学校から始まった鶴の居る村ならではの、そして多くの村民の協力によって成り立っている授業です。今年度も下幌呂小学校で実施します。

5月 種まき

農家さんの理解のもと畑の一面をお借りして、畝づくりや肥料まきを経てタンチョウの餌にするデントコーンの種をまきます。まき終わったら低温に負けないようにパオパオをかけます。



6月 草取り

パオパオを外すと順調に育ったデントコーンの芽のまわりにたくさんの草。デントコーンの芽を抜かないように気をつけながら草取りをします。



9月 収穫・乾燥

実ったデントコーンを収穫し、2, 3枚を残して皮をむきます。2つのコーンを残った皮で結び、あとは棒にぶら下げて3ヶ月前後ずっと干しておきます。



12月～1月 ほぐす

乾燥してカチカチに固くなったコーンを、ぞうきんを絞る要領でほぐすほか、ぼっこでたたいたり、本州から寄贈されたコーンをほぐす専用の器械を使ったり、いろいろな方法で粒々にほぐします。これでタンチョウの餌の完成！ 下幌呂小学校では、鶴居村女性団体連絡協議会のみなさんと交流しながら活動しています。



2月 完成！

できあがったタンチョウの餌は幌呂小学校は毎朝校庭に給餌し、下幌呂小学校は鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリへ寄贈しました！ サンクチュアリでは、レンジャーさんの解説を聞きながら自分たちの作った餌をついばむタンチョウをじっくり観察しました。

